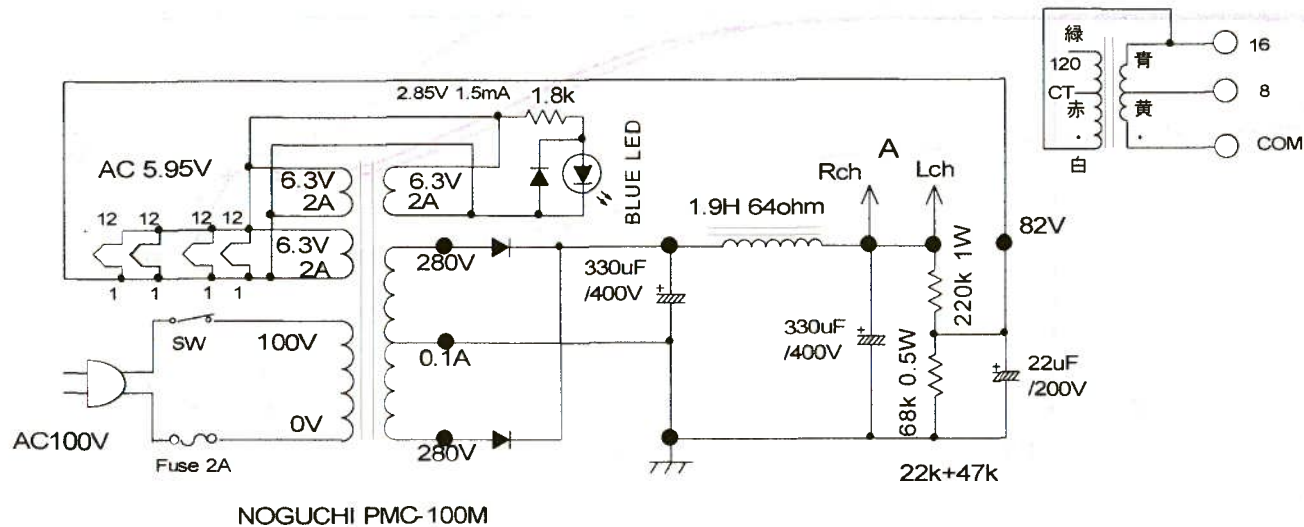
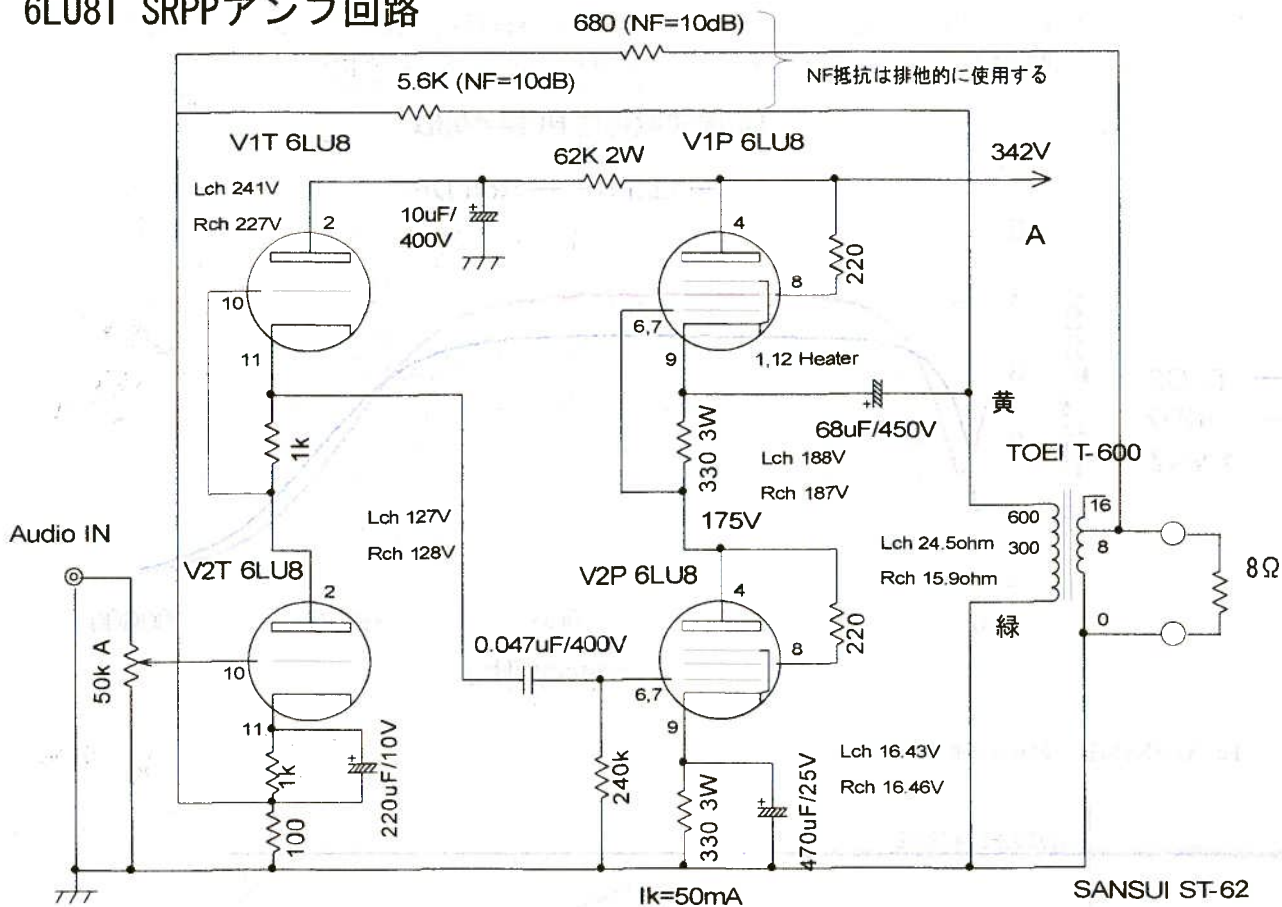


6LU8T SRPPアンプ回路



SRPP方式のアンプを制作することがなかったので、手持ちの真空管とトランス類を使って製作することにしました。

処女作のため、オーソドックスな回路を使いました。
シャーシはいつものようにアルミ平板を折り曲げ、左右
にMDF製の板を設ける方式としました。

今回、電源トランスと出力トランスのカバーを作りましたが、MDF板の小口へうまく塗装ができなかったため、MDF板の表面に0.2mm厚のAL板を巻いて塗装しましたが、少し表面にシワが寄ってしまいました。

測定結果

最大出力 3W/1Vrms atTHD=5%

周波数特性

Lch 11.7Hz ~ 20.0KHz -3dB at Po=1W

Rch 11.7Hz ~ 17.5KHz -3dB at Po=1W

ダンピングファクター at 1KHz

Lch 3.5 Rch 4.1 NFB=10dB

Lch 1.2 Rch 1.35 NFB=10dB

質量 4.6kg

特性面での特徴

SRPPは正確なプッシュプル動作をしていないため、歪率特性の傾向はシングルアンプに近くなります。

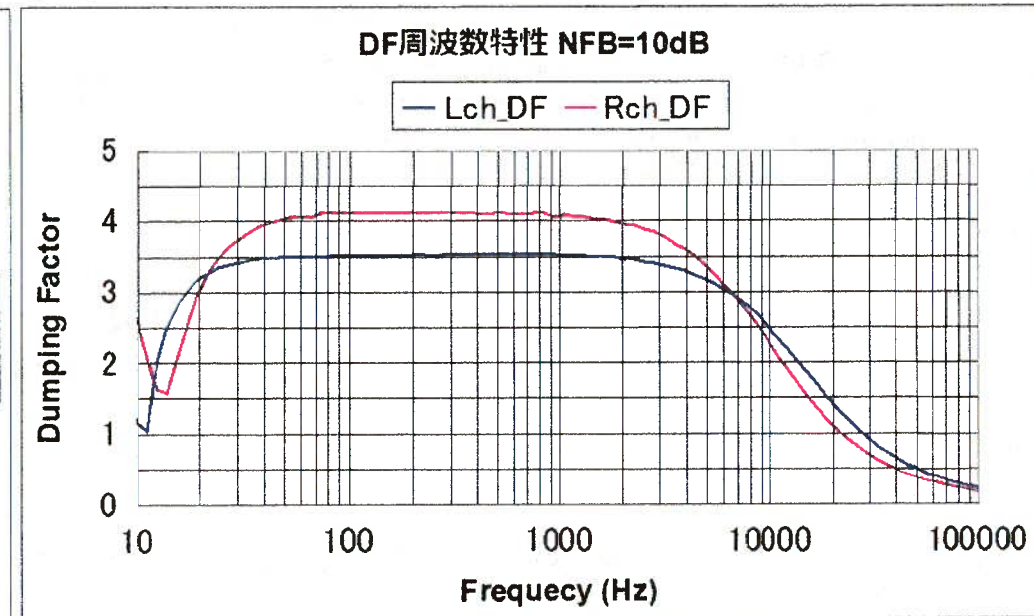
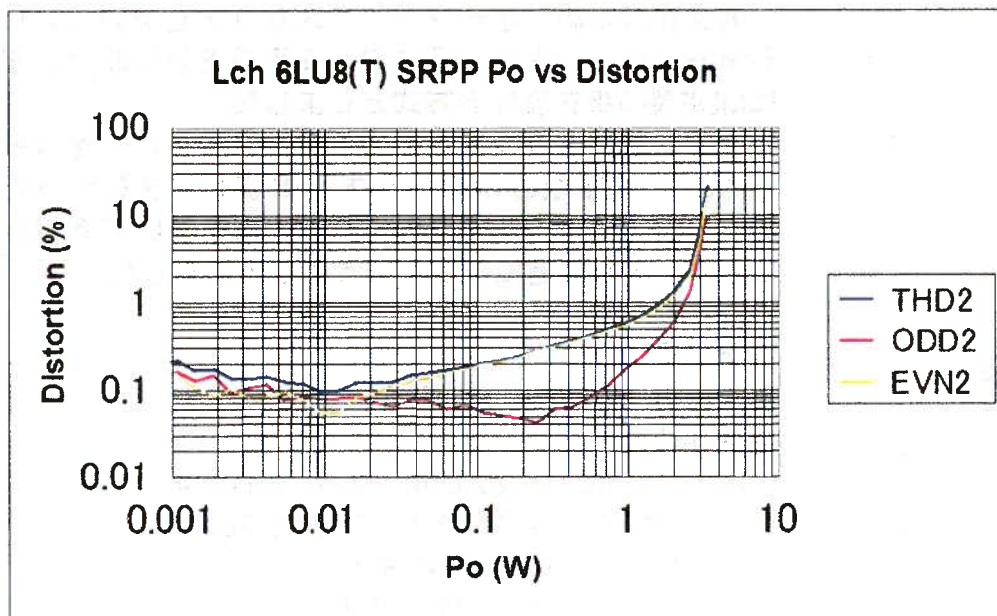
なお、出力トランスにDCが流れないので、小型のトランスでも低域特性が向上しますが、出力端子にコンデンサとトランスが直列に接続される形となるため、この直列共振周波数で出力にピークが発生します。

この特性は出力コンデンサの容量や帰還量の設定で変えられますが、ピークを0にするには非常に大きな出力コンデンサが必要になるので、現実的にはピークが発生すると思ったほうが良いと思います。

シングルアンプよりも良好な低域特性と低域のピークがSRPPの音質を決めているのではないかと考えています。

6LU8(T)SRPP AMP 代表特性

手持ちのTOEI T-600 はLchとRchで一次側の巻線抵抗が異なっており、それが周波数特性やダンピングファクター特性の違いの原因となっている。



Po=1W at No-NFB NFB=9.65dB

